アドベンチャーガイズ
マナスル(8163m)峰 公募登山隊
2017 募集要項

マナスル山頂

お問合せ ㈱アドベンチャーガイズ

〒102-0072 東京都千代田区飯田橋4－5－4山和ビル3階

Tel:03-5215-2155　Fax:03-3288-3211

２０１７年「マナスル公募登山隊」

この登山隊は「マナスル峰（8，163m）」登頂を目的とした公募形式の登山隊です。

標高8,000m以上の高所は、酸素が平地の1／3以下、気温も－30℃以下になることもある過酷な自然環境です。ここは、体力・技術・豊富な経験等を持ち合わせた、登山のエキスパートのみに許される領域です。
しかしながら「高所経験の豊富な山岳ガイドのサポート」、「積極的なネパール人高所ガイドの雇用」、「高所での積極的な酸素の使用」等により、一般の登山者にも登頂が可能なタクティクスを作ることが出来ます。この隊は、参加者自身の技量だけでは登頂が難しい一般の登山愛好家を中心に、山岳ガイドが登頂のために必要な技術、経験の足りない部分をサポートしながら登頂を目指す公募隊です。

「マナスル峰」

日本人が初登頂を果した8，000m峰として登山史に燦然と輝きます。そのドラマは大きなニュースとなり日本中を駆け巡り、登山ブームを引き起こしました。世界第8位の高峰で山麓までをネパール国内に有します。通常BCへは非常に長く厳し行程ですが、この隊ではヘリコプターを使い、体力を温存しながらスムーズにアプローチします。
技術的には他の8，000m峰に比べ、なだらかな斜面の登攀が多く登りやすい山ですが、アイスフォールの通過が困難とされていました。しかしながら、現在は世界中の公募登山隊が集まり共同でルート工作をすることによって、8，000m峰としては比較的登りやすい山になっています。

「日本人が企画・運営する公募登山隊のメリット」

現在、世界各国でマナスル公募登山隊が募集されています。これは国際隊で参加者の中心は欧米諸国の登山者になります。近年、日本人にもこの欧米の公募登山隊に参加する方を見受けます。しかし、言葉や文化の違い、そして体格差による基礎体力の違いなどから、うまくこれらの登山隊に馴染ず良い結果が得られない方もいるようです。アドベンチャーガイズの公募登山隊は日本人による日本人のために企画・運営される公募登山隊で、食事、ペース配分等、日本人参加者に合わせるのは無論のこと、登山成功の大きなポイントであるストレス解消や登山意欲の維持がうまくできるように日本語できめ細かくサポートします。隊員も自分の要望を細かいニュアンスまで伝えることができるので、ストレスがたまりづらい快適な環境での登山活動になります。

マナスルBC

「公募登山隊参加費用」

＊公募登山隊:8名参加の場合

カトマンズ発着

9/7(木)～10/11(水) 35日間　￥3，000，000.

「公募登山隊参加費用に含まれるもの」

カトマンズ～サマ間の往復ヘリコプター代金、 登山申請料＋入山手続費用、 現地キャンプ費用（食事も含む）、 現地での荷物運搬費用(トラック、ヤク、ポーター)、 現地移動費用
日本人リーダー同行費用、 ネパール人ガイド同行費用、 テント・登攀用具等共同装備費用、
酸素ボンベ(高所行動、睡眠用＋予備)

＊同行スタッフ 公募登山隊参加者が8名の場合　日本人リーダーx1　ネパール人ガイドx8名
＊アタック時には、参加者にマンツーマンで、ネパール人ガイドが付きサポートします。
＊酸素はC2の睡眠時より上部に使います。

「参加費用に含まれないもの」（主なものを例示します）

登山後の現地ガイドへのチップ、個人的に利用した衛星電話等通信費、自由行動中の費用、現地事情でルートを変更した場合の費用、天候等で予定通り行動出来なかった場合に新たに発生するホテル・航空券の費用、規定以上の個人装備運搬費用、その他個人的諸経費

公募登山隊に参加するためのツアー

東京発着　9/6(水)～10/13(金) 38日間 旅行費用 ￥155，000.

旅行企画・実施　株式会社アドベンチャーガイズ　観光庁長官録旅行業1713号
最少催行人員:8名　利用予定航空会社:キャセイパシフィック、マレーシア、シンガポール
タイ、エティハド、カタール、エミレーツ、大韓航空
利用予定ホテル:カトマンズ＝ガンジョン、チベット、ロイヤルシンギ

「旅行費用に含まれるもの」

東京～カトマンズ間の往復航空券(帰国便変更可能航空券)、カトマンズのホテル宿泊費用（日程表に明記された2泊分)、カトマンズ空港～ホテル間の移動費用、日本から現地への共同装備運搬費用と10kgまでの個人装備運搬費用、
＊別途お渡しする、旅行条件書、旅行約款を必ずご確認下さい。

BCマネージャー隊と応援隊も設定

＊詳しくはお問合せ下さい。

「BCマネージャー隊」
登山隊と同一行動でBCまで入り、登山隊が登山活動中に、色々な面で登山隊をサポートします。また、パーミットの許す範囲で、一緒に順応活動やトレッキングをBC中心に楽しみます。

「応援隊」
カトマンズより登山隊と行動を共にしながらヘリコプターでマナスルのBCへ入ります。登山隊と共にBCに滞在しながらヒマラヤの自然を満喫して下さい。BCで登山隊のアタックを見送ったらカトマンズ経由で一足先に帰国します。

《マナスル(8,163m)公募登山隊》

		日程
◎９月６日(水)　東京/朝発　⇒ アジア都市　⇒ カトマンズ/夜着		
１	９月０７日(木)	カトマンズ(1,350m)
２	０８日(金)	カトマンズ(1,350m)―(ヘリコプター)→サマゴンパ(3500m)
３	０９日(土)	サマゴンパ(3500m)滞在　周辺で高所順応ハイク
４	１０日(日)	サマゴンパ(3500m)滞在　周辺で高所順応ハイク
５	１１日(月)	サマゴンパ(3500m)→ケモカルカ(3800m)
６	１２日(火)	ケモカルカ(3800m)→マナスルＢＣ(4,800ｍ)
７	１３日(水)	マナスルＢＣ　プジャ　休養
８	１４日(木)	マナスルＢＣ←→キャンプ１（Ｃ１　5,800m)付近
９	１５日(金)	マナスルＢＣ←→Ｃ１付近
１０	１６日(土)	マナスルＢＣ
１１	１７日(日)	マナスルＢＣ→Ｃ１
１２	１８日(月)	Ｃ１→6,300ｍ付近→Ｃ１
１３	１９日(火)	Ｃ１→キャンプ２（Ｃ２　6,800m)
１４	２０日(水)	Ｃ２→Ｃ１→ＢＣ
１５	２１日(木)	マナスルＢＣ
１６	２２日(金)	マナスルＢＣ
１７	２３日(土)	マナスルＢＣ
１８	２４日(日)	Ｃ１→Ｃ２
１９	２５日(月)	Ｃ２→キャンプ３（Ｃ３　7,450ｍ付近）
２０	２６日(火)	Ｃ３→山頂→Ｃ３
２１	２７日(水)	Ｃ３→Ｃ１
２２	２８日(木)	Ｃ１→ＢＣ
２３ ↓ ３３	２９日(金) ↓ １０月０９日(月)	登山調整日
３４	１０日(火)	マナスルＢＣ→サマゴンパ
３５	１１日(水)	サマゴンパー（ヘリコプター）→カトマンズ
◎１０月１２日(木)　カトマンズ/午後発　⇒　アジア都市 ◎１０月１３日(金)　東京/午後着		

※上記日程は、天候やルートの状況により変更になる場合がございます。予めご了承下さい。

注意事項（お申込み前に必ずお読み下さい）

1. 参加の技術、体力レベル

参加に際しての標準的な技術、体力レベルの目安は、下記のようになります。

＊緩やかな斜面でアイゼン・ピッケルを確実に使うことができる。
＊雪上を含む基本的なテント生活経験がある。
＊国内で1日標高差1,000m以上を登り降りができる
＊３泊４日以上の長期山行の経験がある。
＊基礎的な高所順応の知識があり、6,000m以上の高所経験がある。

2. 登山隊長・登山ガイドに関して

日本人リーダーが登山隊長としてこの公募登山隊を運営・管理します。また隊長は8,000m峰登頂等、高所登山経験が豊富な者を選任します。

中国では日本やヨーロッパ諸国のように国際的な技術水準をもつ山岳ガイドが手配出来ません。

このため、日本から同行する山岳ガイドが中心となりネパール人高山ガイドをサポートスタッフとして一緒に登山隊を運営します。また、ネパール人スタッフは原則的に日本語は話せませんので英語での会話となりますが、登山中の重要な事項は日本人リーダーが通訳致しますので言葉の不安はほとんどございません。その他に国立公園内ではネパール政府の連絡官がＢＣまで同行いたします。

3. 高所への対応

登山中、全ての隊員に必ず高度の影響が出ます。

全ての隊員の登頂が安全に成功するよう下記のように万全の体制で高所へ対応を行ないます。

＊高度順応の為に最適と思われる日程を組みます。
＊パルスオキシメーター、携帯用加圧バック等の高所登山用の装備を用意して登山に望みます。
＊日本人リーダーが効率良く高度順応出来るよう健康管理も含め的確にアドバイスします。
＊7,000m以上の宿泊では酸素を使用します。

4. 登山中の判断に関して

ルート決定、日程調整、パーティー編成、登山中止等、登山中の判断は隊長および日本人リーダーが参加者の安全を第一に考え行ないます。

この決定には必ず従って頂きますので、予めご了承下さい

5. 登山中止に関して

隊長および日本人山岳ガイドは参加者の安全を第一に考えながら登山活動を行います。天候、ルートの状況、参加者の体調によってはやむを得ず登山活動の全部または一部を中止する場合もあります。

予めご了承下さい。また、これらの決定は隊長および日本人リーダーが行い、いかなる事由があろうと必ず従って頂きます。また登山が中止された場合いかなる事由であれ参加費用の変更、返金はありませんので、予めご了承下さい

以下に登山を中止する場合の対応を例示します。

＊悪天候で登山を中止した場合。
　可能な限り予備日の範囲内で登山活動を継続しますがやむをえない場合は、全部または一部を中止する場合があります。
＊ルートの状況により登山を中止した場合。
　天候、天災、政治的事由等で出発前に登山が困難と判断された場合は可能な限り登山ルートの変更または他の山の登山に振替えます。
＊交通、宿泊施設、装備運搬に支障がでた場合
　登山予備日を使用して可能な限りアタック態勢を整えるよう努めますが、不可能な場合は登山ルートの変更または他山の登山に変更する場合があります。
＊登山技術が未熟で登山活動の継続が出来ないと判断された場合。
　安全に登山を継続する事ができないと判断された時点で下山を開始します。この場合パーティー構成が変更される場合があります。
＊登高ペースが遅い場合
　余裕をもって安全地帯まで下山するにはペースが遅いと判断された段階で下山を開始します。この場合、パーティー構成が変更される場合があります。
＊登山装備に支障があった場合。
　装備に支障がある場合､その参加者の登山を中止します。装備表を良くご覧になり準備して下さい。(新しいアイゼン等は事前に実際に装着して、装着可能か確認して下さい。)
　装備について不明な点がありましたらお問い合わせ下さい。また、現地では個人装備の貸与は一切しませんので、予めご了承下さい。

6. キャンプに関して

上部キャンプへの個人装備の荷上げは原則的に隊員自身が行います。また上部キャンプの設営は原則的にシェルパが行います。

7. 緊急時の対策

この登山隊で訪れる地域は、一般的には秘境、辺境と呼ばれる地域です。可能な限り山岳ガイドや現地スタッフは無線機等での連絡方法を確保し、緊急時に備えますが、日本やヨーロッパ諸国等に比べて、必ずしも充分な救助体制が確立されていません。参加者はその点を充分に理解した上、無理のない行動、安全な登山を心がけて下さい。

また、隊員は弊社が指定する内容の山岳保険に加入することが参加条件となりますので、予めご了承下さい。

8. 公募隊の記録

公募隊で記録された写真、ビデオ、隊員の様子等、行動レポート等は主催者の判断でテレビ、ビデオ、雑誌、ホームページ等で公開することに同意頂きます。また、参加者が独自に公開する場合は主催者の許可が必要であることに同意頂きます。

9. 申込み

出発の３ヶ月前までに申込書と申込金を添えて申込下さい
　　申込金：￥３００，０００.

10. 提出書類

下記の書類を出発２ヶ月前までにご提出下さい

１．山岳保険申込書（同等の保険に加入済みの場合はその証券等のコピー）
２．山歴書
３．参加に際する約定書
４．健康診断書
５．その他、渡航手続きの書類

11. 参加取消

下記の参加取消料をお支払い頂く事によって公募隊の参加を取り消すことが出来ます。

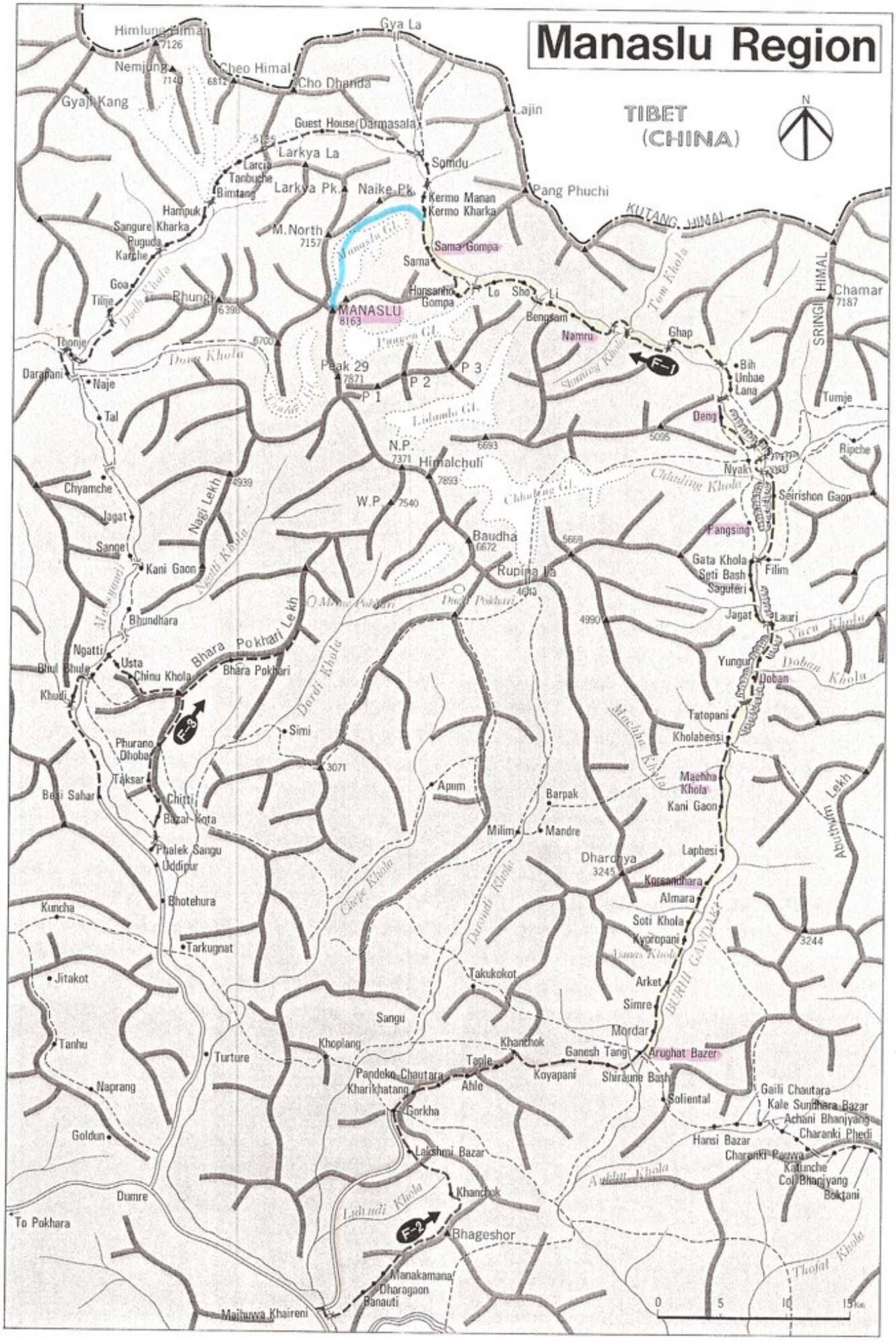
出発日の３ヶ月～１ヶ月前	参加費用の７０％
出発日の１ヶ月～３日前	参加費用の９０％
出発日の前々日、前日	参加費用の１００％
無連絡不参加、出発後	参加費用の１００％

《マナスル登頂参考装備表》

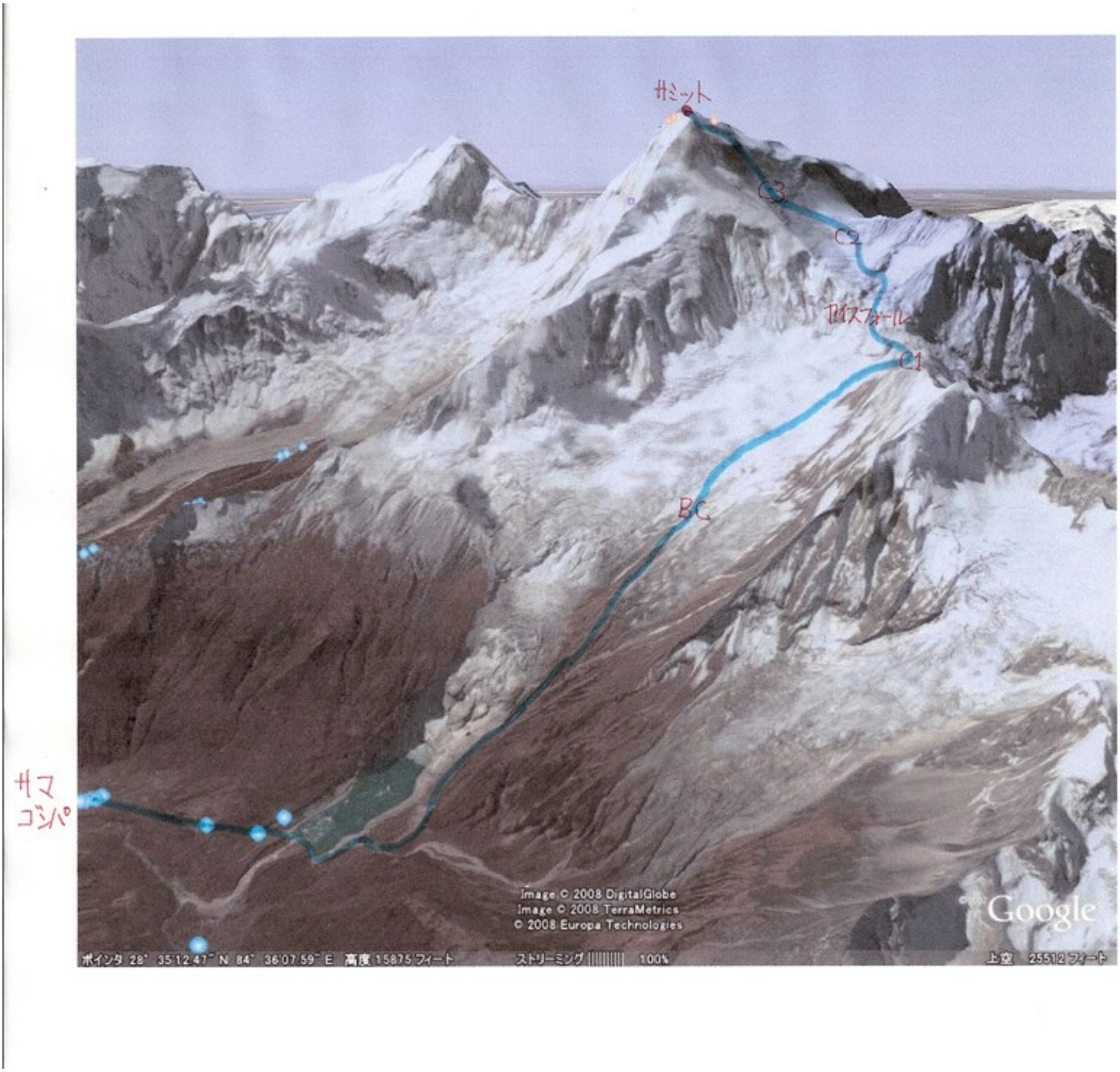
NO	品名	数量	チェック		備考
1	登山靴	1足	○		オーバーブーツ一体型の高所用ブーツ
2	軽登山靴	1足	○		履きなれたもの。ベースキャンプまでのアプローチに使用。
3	運動靴または普段履き	1足	○		都市滞在中、車での移動などに使用。
4	サンダル	1足	○		1足あるとリラックスできます。
5	アイゼン	1個	○		12本爪以上のフルアイゼン。取り付け方が簡単なもの。
6	ピッケル	1個	○		軽量で長すぎないもの。
7	エイト環	1個	○		懸垂下降用。
8	ハーネス	1個	○		シットハーネスタイプで装着の簡単なもの。
9	安全環付きカラビナ	2個	○		ハーネス装着に必要。スリング(120cm) も1本あると便利。
10	アッセンダー	1個	○		通称ユマール。急斜面のセラック帯の登り等に使います。
11	ストック	1組	○		三段の伸縮するものが便利。
12	大型バック等100 ℓ位	1個	○		飛行機に預けるバック。BCへの荷物の運搬にも使用。汚れても平気なもの。スーツケース不可。
13	中型バック等60ℓ位	1個	△		BCまでの荷物の運搬に使用。汚れても平気なもの。中型リュックサックと兼用も可。
14	中型リュックサック 50ℓ位	1個	○		寝袋、マットなどの個人装備が入るもの。上部キャンプへの移動時に自分で背負うリュックサック。
15	アタック用ザック 40ℓ位	1個	△		頂上アタック時に使用します。水筒、酸素ボンベなどが入るもの。中型リュックサックと兼用も可。
16	羽毛服	1着	○		頂上アタック時に使用。BCでの保温用などにも使用。
17	アウターシェル	1組	○		オーバージャケット、オーバーパンツ。防水性が良く、ムレないもの。急な降雨には雨具として、高所では防寒着、または防風着として使用出来るものが便利。
18	ミッドレイヤー	1組	○		行動用の薄手のフリースやシャツ等から、防寒用の厚手のフリースや薄手の羽毛下着等の組み合わせ。ウール・化学繊維系のズボンやタイツ等の組み合わせ。軽く、暖かく、温度調整のし易いもの。綿製品は不可。
19	ﾌｧｰｽﾄﾚｲﾔｰ （下着）	1組	○		ウール、ポリエステル系素材によるロングスリーブ、ロングタイツが望ましい。汗などの水分の速乾性と動きやすさの両立したもの。綿製品は不可。ショーツ等もこれに準ずる。
20	オーバーシューズ （一体型の場合は不要）	1組	○		シンサレート等の中綿の入ったものはとても暖かい。オーダーメイドのものがベスト。
21	手袋	2双	○		厚手の未脱脂のウール製品等、登攀用製品。他に薄手のアンダーグローブもあると便利。
22	オーバーミトン	1組	○		ゴアテックス製品。十分な大きさで厚手の毛手袋の上から着用できるもの。 3本指、5本指など。羽毛入りミトンもあります。

NO	品名	数量	チェック		備考
23	靴下	3足	○		メリノウールと化学繊維のミックスが、保湿性、速乾性、クッション性が優れている。
24	目出帽	1個	○		薄手のもので顔の大きさに合っている物。高所帽と兼用も可
25	帽子	適量	○		日よけ用。キャップなど。高所帽兼用も可。
26	ヘルメット	1個	○		登山用の軽量のもの。
27	寝袋（シュラフ）	1個	○		羽毛量８００ｇ程度の冬山用が安心。
28	シュラフカバー	1枚	○		ゴアテックス製の軽量のもの。
29	個人用マット	1枚	○		寝心地はエアーマットが良い。ロールマットの方が軽い。
30	折りたたみ傘	1個	△		降雨・降雪に備え。日傘にも応用可。街中でも使えます。
31	サングラス	1個	○		顔の大きさにあったもの。安価なものは不安。
32	ゴーグル	1個	○		顔の大きさにあったもの。Ｗレンズのもの。
33	ヘッドランプ	1個	○		予備電池・電球も必要。発光ダイオードのものが効率が良い
34	水筒	1個	○		１ℓ以上のもの。
35	テルモス	1個	○		移動中や夜間に温かい飲物が飲めるよう。１ℓ程度のもの。
36	ハイドレーション	1個	○		行動しながら水分補給ができるので便利。
37	日焼け止めクリーム	適量	○		日焼け防止や唇荒れ防止に
38	マスク	適数	○		防塵用と睡眠時に喉の乾燥を防ぐため。使い捨てのものが便利。
39	洗面用具	適量	○		普段使い慣れたもの。
40	医薬品	適量	○		持病薬の他、鎮痛剤、外傷薬、感冒薬、整腸薬、胃腸薬等、常備薬は漢方系の物が体の負担が少なく安心です。
41	嗜好品	適量	○		体調が悪く食欲の無い時に簡単に食べられるものなど。
42	磁石・高度計・温度計	適量	△		持っていると便利。
43	筆記用具	適量	○		ボールペン、メモ帳など。

○：必需品　　△：なくても困りませんがあった方が便利　　×：不要
＊上記装備表は絶対的なものではありません。上記を参考に各自装備リストをお作り下さい。


Manaslu Region
TIBET
(CHINA)
N
Himlung Himal
7126
Nemjung
7140
Cheo Himal
6812
Cho Dhanda
Gya La
Gyaji Kang
Lajin
Guest House(Darmasala)
5155
Larkya La
Larcia
Tanbuche
Bimtang
Larkya Pk.
Naike Pk.
Somdu
Pang Phuchi
Kermo Manan
Kermo Kharka
KUTANG HIMAL
Hampuk
Sangure Kharka
Puguda
Karche
M.North
7157
Manaslu Gl.
Sama Gompa
Sama
Goa
Tilije
Dudh Khola
Phungi
6398
MANASLU
8163
Honsanho Gompa
Lo
Sho
Li
Bengsam
Namru
Tom Khola
Ghap
SRINGI HIMAL
Chamar
7187
Thonje
6700
Dora Khola
Pungen Gl.
Peak 29
7871
P 1
P 2
P 3
Shuning Khola
F-1
Bih
Unbae
Lana
Darapani
Naje
Tal
Lidanda Gl.
Deng
5095
Tumje
Ripche
N.P.
7371
Himalchuli
7893
6693
Nyak
Chhuling Khola
Chyamche
4939
Nagi Lekh
W.P.
7540
Chhuling Gl.
Seirishon Gaon
Jagat
Sange
Baudha
6672
5669
Pangsing
Kani Gaon
Ngatti Khola
Rupina La
4613
Gata Khola
Seti Bash
Saguleri
Filim
Bhundhara
Meme Pokhari
Dudh Pokhari
4990
Jagat
Lauri
Yuen Khola
Ngatti
Usta
Bhara Pokhari Lekh
Bhara Pokhari
Yungur
Doban
Doban Khola
Bhul Bhule
Chinu Khola
Khudi
Dordi Khola
F-3
Tatopani
Kholabensi
Simi
Phurano
Dhoba
3071
Machha Khola
Taksar
Apum
Machha Khola
Kani Gaon
Besi Sahar
Chitti
Barpak
Abuthum Lekh
Bazar Kota
Milim
Mandre
Phalek Sangu
Uddipur
Dharchya
3245
Lapbesi
Korsandhara
Almara
Bhotehura
Chepe Khola
Darondi Khola
Kuncha
Soti Khola
Kyoropani
Asmas Khola
3244
Tarkugnat
BURHI GANDAKI
Jitakot
Takukokot
Arket
Simre
Sangu
Mordar
Tanhu
Khoplang
Khanchok
Ganesh Tang
Arughat Bazer
Turture
Taple
Koyapani
Shiraune Bash
Pandeko Chautara
Kharikhatang
Ahle
Naprang
Soliental
Gaili Chautara
Kale Sundhara Bazar
Achani Bhanjyang
Gorkha
Goldun
Hansi Bazar
Charanki Phedi
Charanki Pauwa
Lakshmi Bazar
Katunche
Col Bhanjyang
Boktani
Aukhu Khola
Dumre
Khanchok
Lududi Khola
To Pokhara
F-2
Bhageshor
Thofal Khola
Manakamana
Dharagaon
Banauti
Maihuwa Khaireni
0
5
10
15km

マナスル登山ルート


サミット
C3
C2
アイスフォール
C1
BC
サマ
コシパ
Image © 2008 DigitalGlobe
Image © 2008 TerraMetrics
© 2008 Europa Technologies
Google
ポインタ 28° 35'12.47" N 84° 36'07.59" E 高度 15875 フィート
ストリーミング 100%
上空 25512 フィート

Yamnānkharka
TBC
BC
C1
C2
Sāmāgāū Gumbā
Bhurchī
Sāmāgāū
Musithā
Manāslu Himāl
(Kāmpuṅge)
BC

マナスル公募隊　フォトギャラリー

サマからのマナスル

BCからのマナスル

BCまでのアプローチ

C3へのアプローチ

マナスルBC

マナスル頂上直下

BCからのマナスル

マナスル山頂

ADVENTURE GUIDES